

ADVANTEST

株式会社アドバンテスト

2012年度 会社説明会

2013年 4月25日

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012年度 決算報告

2013年 4月25日

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

ADVANTEST

(単位: 億円)

	2011年度 通期	2012年度								
		1Q	2Q	3Q	1月 時点 予想	4Q	前期比 (%)	1月 時点 予想	通期	前年 度比 (%)
受注高	1,262	462	253	244	321	298	+22.6	1,280	1,257	-0.4
売上高	1,410	334	392	246	348	357	+45.0	1,320	1,329	-5.8
売上原価	723	158	187	116	-	179	+55.3	-	640	-11.5
売上総利益	687	176	205	130	-	178	+36.0	-	689	+0.3
営業利益	8	8	26	-26	17	-7	-	25	1	-90.5
営業外収支	-42	5	-8	-4	-	-7	-	-	-14	-
税引前純利益	-34	13	18	-30	-	-14	-	-	-13	-
当期純利益	-22	4	11	-34	-	-19	-	-	-38	-
受注残	236	364	225	223	196	164	-26.2	196	164	-30.3

※買収に伴い、2011年度第2四半期より
IDVerigy社の業績連結を開始しております。

○ 2012年度の業績概要

- ・受注高 1,257億円 前年度比 0.4%減
- ・売上高 1,329億円 前年度比 5.8%減
- ・営業利益 1億円
- ・税引前純損失 13億円
- ・当期純損失 38億円

なお営業外損失の主なものは、
為替差損 14億円

○ 受注残 12月末から 58億円減少 164億円

- 1月末時点の通期業績予想は、
受注高 1,280億円、売上高 1,320億円、営業利益 25億円。
売上高は上回ったが、受注高、および営業利益は未達にとどまった

- 第4四半期の営業利益予想が未達にとどまった要因を、
次スライドで説明する

4Q予想値に対する実績値の分析

ADVANTEST®

(億円)

	4Q予想値 (3Q発表時)	4Q 実績値		
		為替の影響を 除いた損益	為替の影響	
売上	348	329	+28	357
売上原価	165	169	+10	179
総利益 (率)	183 (52.7%)	160 (48.6%)	+18	178 (49.8%)
営業費用	167	173	+12	185
営業利益	17	▲13	+6	▲7

○ 2012年度3Q決算発表時の4Q予想と実績比較分析について

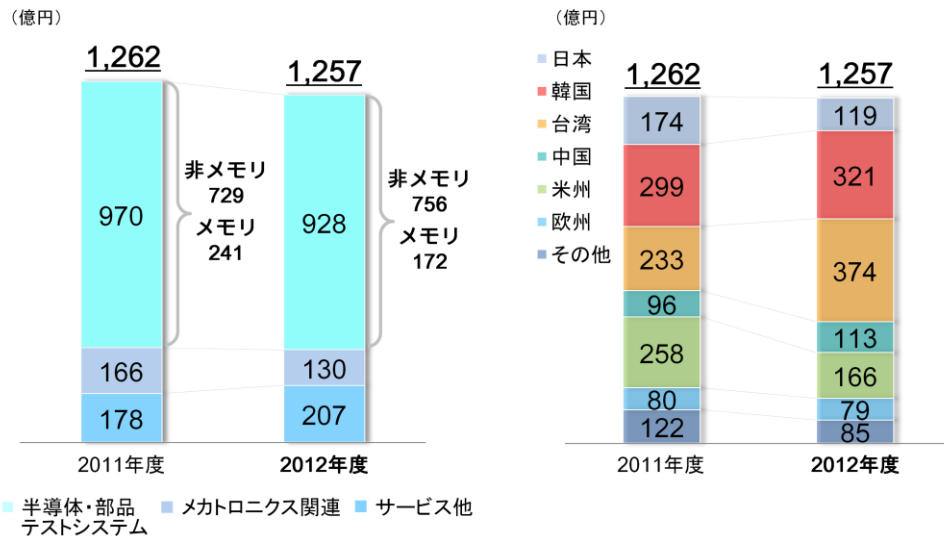
- 4Q損益予想は主に3Q累計実績をベースに想定。
売上 348億円、営業利益 17億円 で予想
(為替 US\$: 80円、 € : 101円)
- 為替の影響を除いた売上は、対予想比19億未達の329億円となり、
総利益についても、売上ミックスが利益率の悪化に働き、
48.6%と 4.1ポイント悪化
- 前年末からの円安効果により、
売上 28億円増収、売上原価 10億円増加、営業費用 12億円増加、
営業利益 6億円増益
(為替 US\$: 92円、 € : 122円)
- 結果、売上 357億円となり、予想を9億円オーバー達成したものの
営業利益は、予想比24億円悪化し、7億円の営業損失となった

2012年度 受注実績

ADVANTEST

【事業セグメント別】

【地域別】



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

○ 事業セグメント別、地域別の通期受注実績

○ 事業セグメント別

- ・半導体・部品テストシステム事業 928億円 前年度比4%減
- ・スマートフォンやタブレット型端末などのモバイル機器の高機能化や販売台数の伸びを背景に、非メモリ・テストの引合いが特に上期に好調。一方で、パソコン販売が年央より振るわなかったことで、メモリ・テストとMPU向け非メモリ・テスト需要は大きく減少。結果、全体として減少した
- ・メカトロニクス関連事業 130億円 前年度比22%減
- ・メモリ・テストの需要軟化に伴い、連動性の高いテスト・ハンドラやデバイス・インタフェース需要も低下
- ・サービスその他事業 207億円 前年度比16%増
- ・テスト販売の増加に伴い、保守契約案件が増加

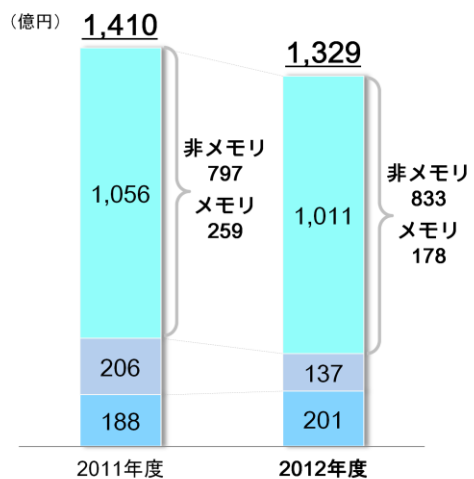
○ 地域別

- ・モバイル機器に搭載される各種半導体の多くがアジア方面で生産されることから、台湾、韓国からの受注が増加。一方で、パソコンやデジタル家電向けの比率が高い日本、米国で減少

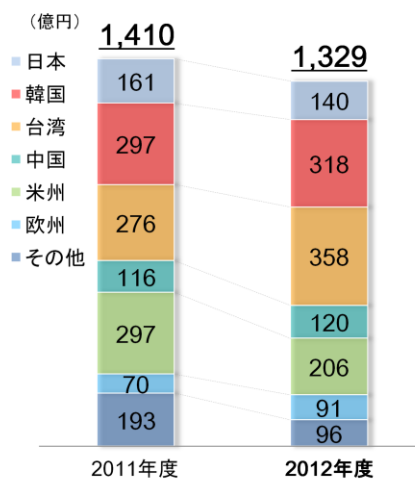
2012年度 売上実績

ADVANTEST

【事業セグメント別】



【地域別】



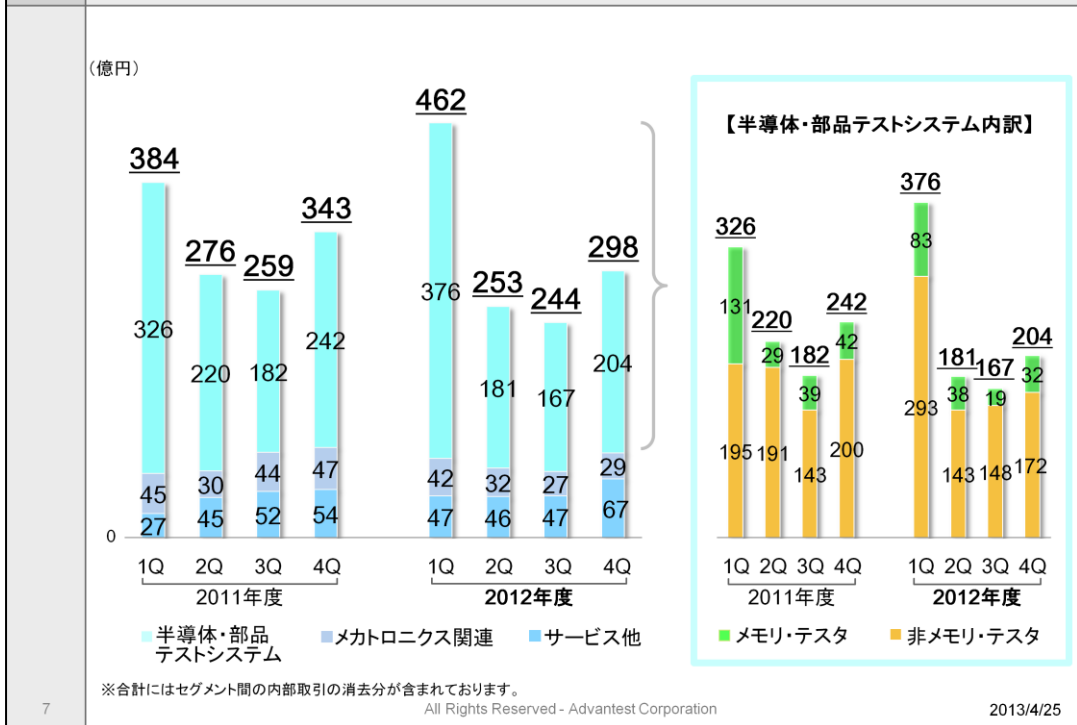
■ 半導体・部品テストシステム ■ メカトロニクス関連 ■ サービス他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- 事業セグメント別
 - ・半導体・部品テストシステム事業 1,011億円 前年度比4%減
 - ・メカトロニクス関連事業 137億円 前年度比34%減
 - ・サービスその他事業 201億円 前年度比7%増加
 - ・受注同様、パソコンやデジタル家電の不振の影響を受け
 テスタやメカトロニクス製品が伸び悩んだ
- 地域別
 - ・モバイル機器向けで、台湾、韓国への売上が増加

四半期別受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2012年度第4四半期の事業セグメント別受注高

- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比23%増 204億円
 - うち非メモリ・テスト 172億円
 - メモリ・テスト 32億円

(主な増加要因)

- ・全体としてモバイル機器向けが改善。
- メモリ・テストが一部需要回復したほか、
- 非メモリ・テストでは、モバイル機器の液晶パネル向け中心にLCDドライバーIC用テストの需要が伸びた

- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比8%増 29億円

(主な増加要因)

- ・メモリ・テストの増加と連動して漸増

- サービスその他事業
 - ・前期比39%増 67億円

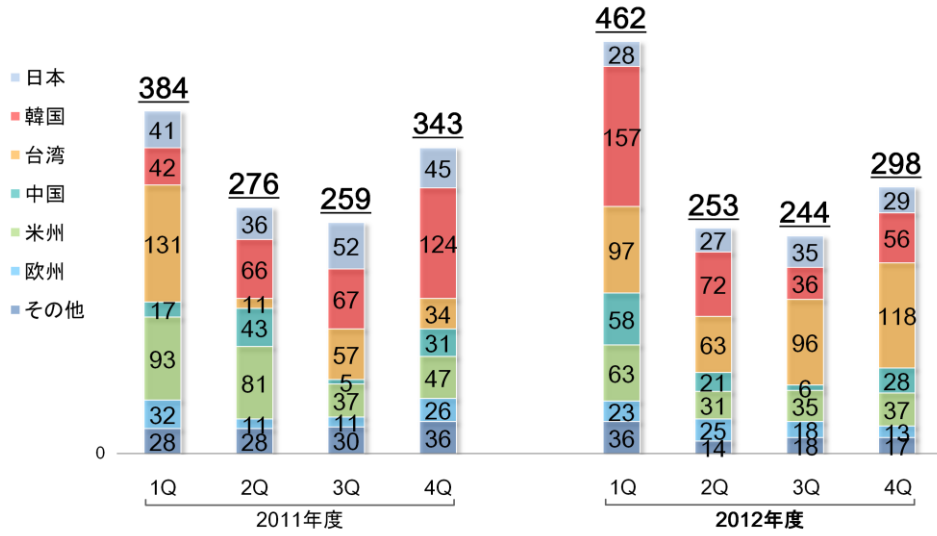
(主な増加要因)

- ・保守契約案件の季節性の増加

四半期別受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST

(億円)



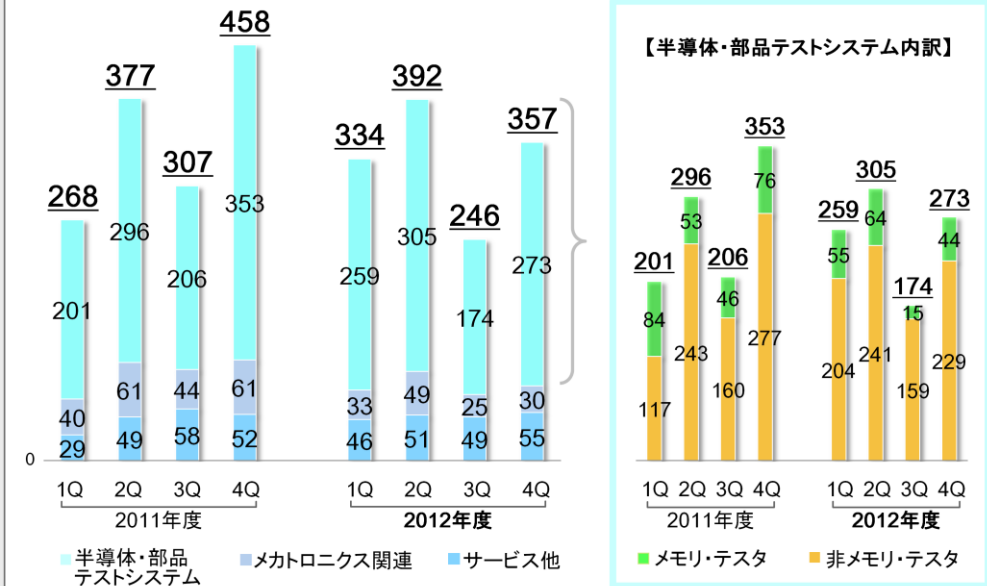
○ 2012年度第4四半期の地域別受注高

- 台湾
主にLCDドライバーIC向けのテスト需要が増加
- 韓国
主にDRAMテストの需要が増加

四半期別売上高 事業セグメント別

ADVANTEST

(億円)



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/4/25

○ 2012年度第4四半期の事業セグメント別売上高

- ・モバイル機器向けで、全体的に増加

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比57%増 273億円
- うち非メモリ・テスト 229億円
- メモリ・テスト 44億円

○ メカトロニクス関連事業

- ・前期比20%増 30億円

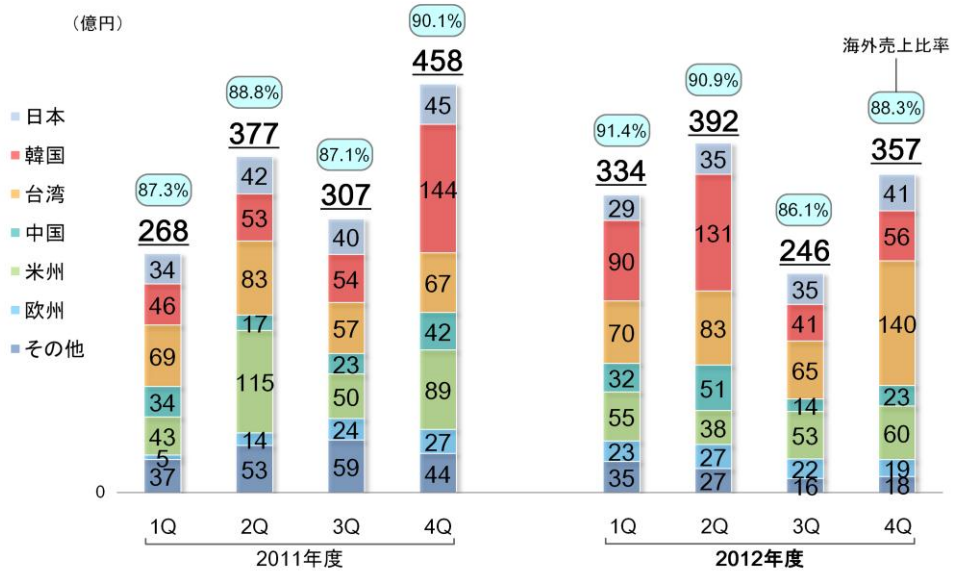
○ サービスその他事業

- ・前期比12%増 55億円

四半期別売上高 地域(出荷先)別

ADVANTEST

(億円)



○ 2012年度第4四半期の地域別売上高

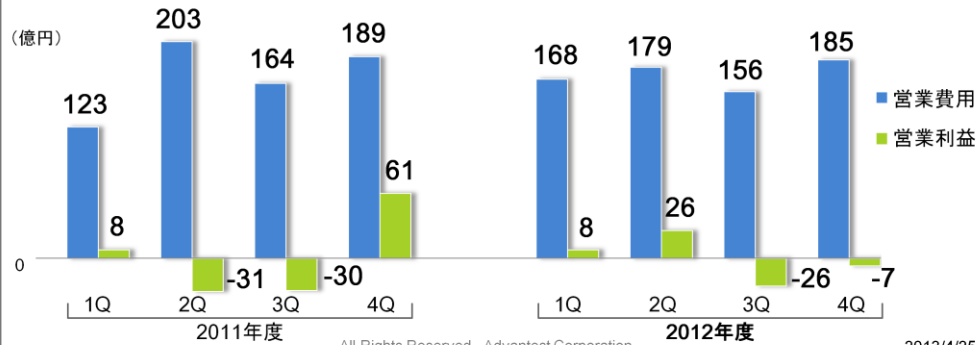
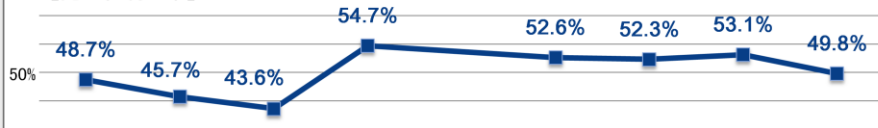
- 台湾
通信用半導体や、LCDドライバーなど
モバイル機器向けの非メモリ・テストが大きく増加
- 韓国
DRAMテストの増加

売上総利益率/営業費用/営業利益

ADVANTEST

	2011年度	2012年度
売上総利益率	48.7%	51.9%
営業費用(億円)	679	688
営業利益(億円)	8	1

【売上総利益率】



11

All Rights Reserved - Advantest Corporation

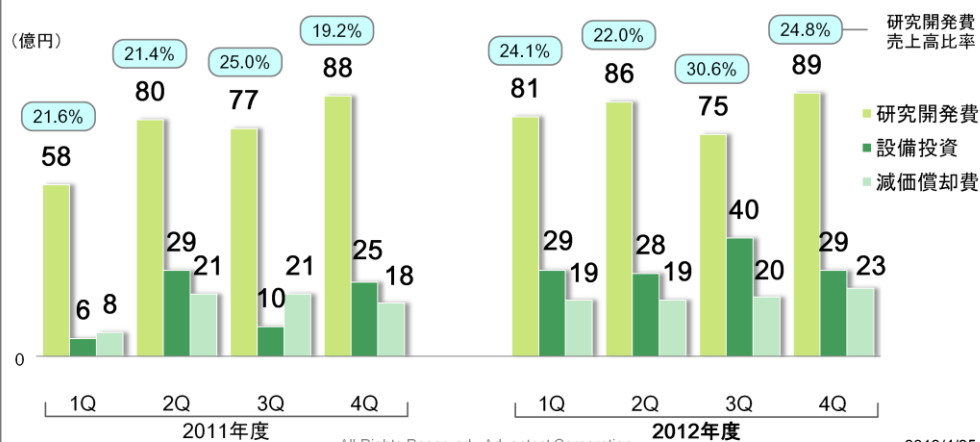
2013/4/25

- 2012年度の営業利益について
- 2012年度第4四半期は、先に説明した要因を受け
 - ・売上総利益率 前期比3.3%減 49.8%
 - ・営業費用 185億円 29億円増
 - ・営業損失 7億円
- 2012年度通期では、
 - ・売上総利益率 51.9%
 - ・営業費用 688億円
 - ・営業利益 1億円
 - ・モバイル機器の高性能化を背景に、非メモリ・テストの中でもハイエンド仕様品の需要が特に上期に堅調、売上高総利益率が改善された

研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST

	2011年度	2012年度
研究開発費(億円)	303	331
設備投資(億円)	70	126
減価償却費(億円)	68	81



12

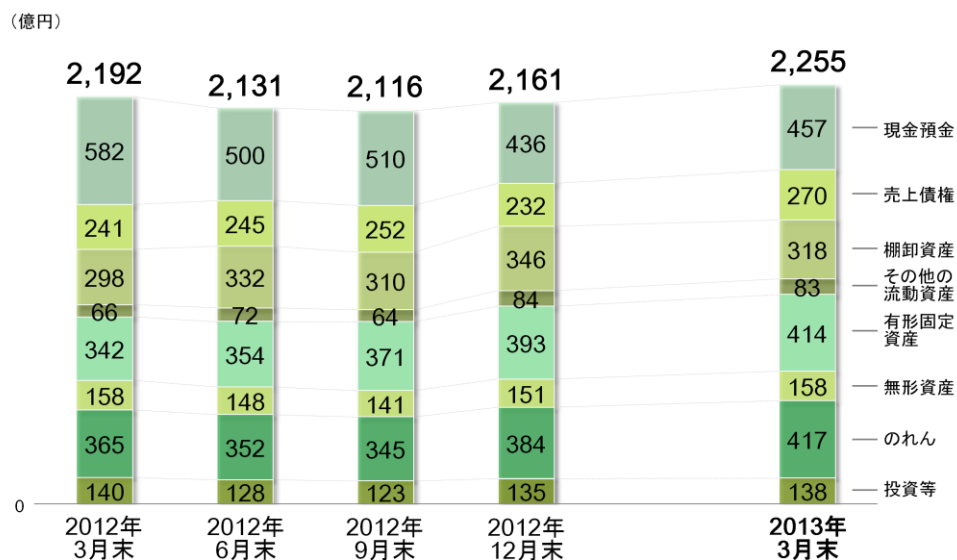
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/4/25

- 続いて2012年度の営業費用の内訳
- 2012年度第4四半期は
 - ・研究開発費 89億円 前期比13億円増
外部委託等の検収時期が期末に集中
 - ・設備投資 29億円 前期比11億円減
建設中の韓国新工場向けが主な用途
 - ・減価償却費 23億円
- 2012年度通期では
 - ・研究開発費 331億円
 - ・設備投資 126億円
 - ・減価償却費 81億円
- ・2012年度の設備投資の主な用途となった韓国新工場は
2013年5月稼働予定。
メカトロニクス事業の収益改善に向け、
テスト・ハンドラやプローブ・カードの新たな事業拠点とする予定

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST



13

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/4/25

○ 2013年3月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

・現金預金

2012年12月末比 21億円増 457億円

・棚卸資産

2012年12月末比 28億円減 318億円

・有形固定資産

韓国新工場建設に伴って、2012年12月末比 21億円増 414億円

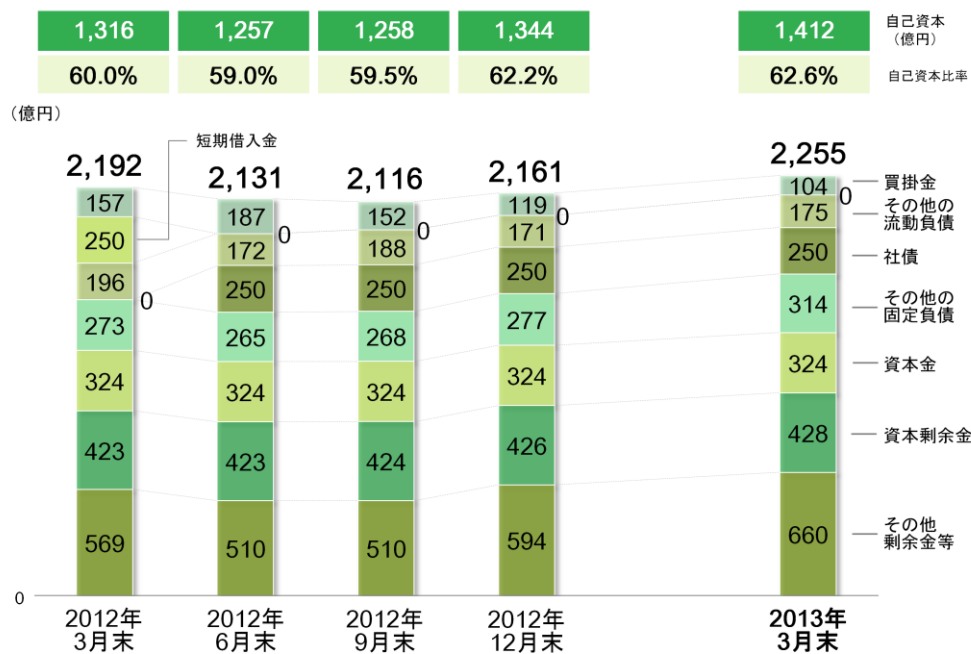
・のれん

円安影響により、2012年12月末比 33億円増 417億円

○ これらの結果、総資産は、
2012年12月末比 94億円増 2,255億円

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST



○ 負債・資本の部

- その他剰余金等 67億円増 660億円
- 自己資本 1,412億円
- 自己資本比率は
2012年12月末から 0.4ポイント増 62.6%

2013年度 事業見通し

“メモリ復活に期待”

2013年 4月25日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

■ 半導体テスタ市場の展望

- 厳しい状況が続くも、メモリ・テスタ投資の再開など足元に底打ち感
- ハイエンド・ロジック向けのテスタ需要は伸び悩みが続く可能性があるが、モバイル関連の需要が立ち上がる初夏以降、明るい環境となると想定。特に、メモリ・テスタ市場に大きな期待

 **メモリ・テスタ市場を基点に
コア事業とテスタ周辺事業を伸ばす**

○ 2013年度のビジネス前提となる、テスタ市場の展望について

- 足元は、パソコンの不振と、スマートフォン生産調整の影響が大きく、テスタ需要は想定より下ぶれ。第1四半期の売上高は、低い水準にとどまる可能性が高い。ただし、DRAMで投資再開の動きがあるなど、底打ちを感じる
- 先行きについては、ハイエンド・ロジック向けは伸び悩みが続く可能性がある。しかし、モバイル関連需要の立ち上がりに応じて、初夏以降、市場全体は明るい環境となると想定
- 特に、メモリ・テスタ市場に大きな期待感
- 今年度は、このメモリ・テスタ市場を基点に、コア事業とテスタ周辺事業を伸ばしていきたい

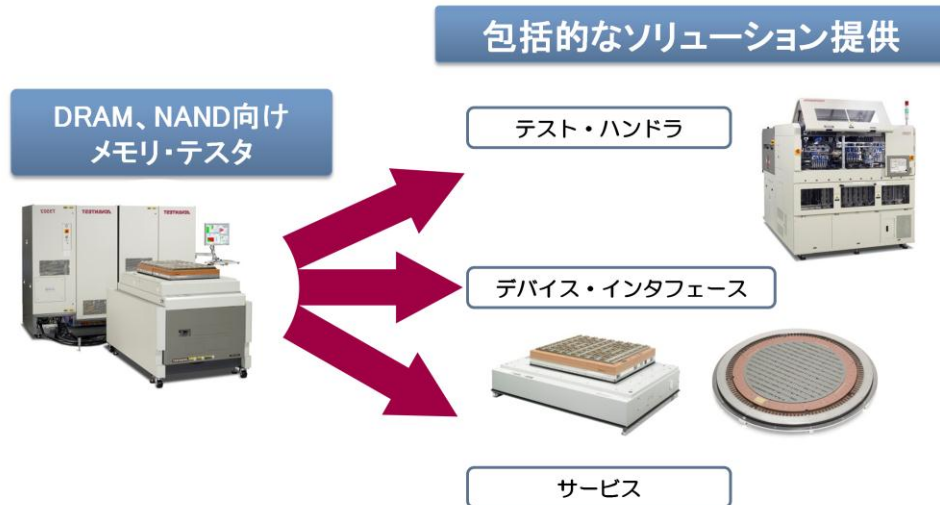
■メモリ・テストの事業環境改善

- 新規テスト投資に慎重だった各メモリメーカーで、デバイス供給拡大のためテスト投資再開の動き
- 2013年は、モバイル機器の高性能化に呼応してメモリデバイスの高速化、容量増が進む予定
- 生産能力拡大の流れと、デバイスの技術進化の流れを追い風に、メモリ・テストの需要回復を期待
- 円安進行も価格競争面で当社にポジティブ

○ メモリ・テスト市場の状況について

- メモリ・テスト市場は、厳しい状況が続いていた。しかし、各メモリメーカーで、デバイス供給拡大のためテスト投資を再開する動きが相次いでおり、風向きが変わってきた。
- また2013年は、モバイル機器の高性能化に呼応してDRAMやNANDフラッシュ・メモリの高速化や容量増が進む予定
- 顧客の生産能力拡大の流れと、デバイスの技術進化の流れを追い風に、これからのメモリ・テストの需要拡大を期待
- 当社はメモリ・テスト市場、特にDRAMテスト市場では既に高いシェアを維持しているが、円安の進行は、価格競争面でさらにポジティブに働く

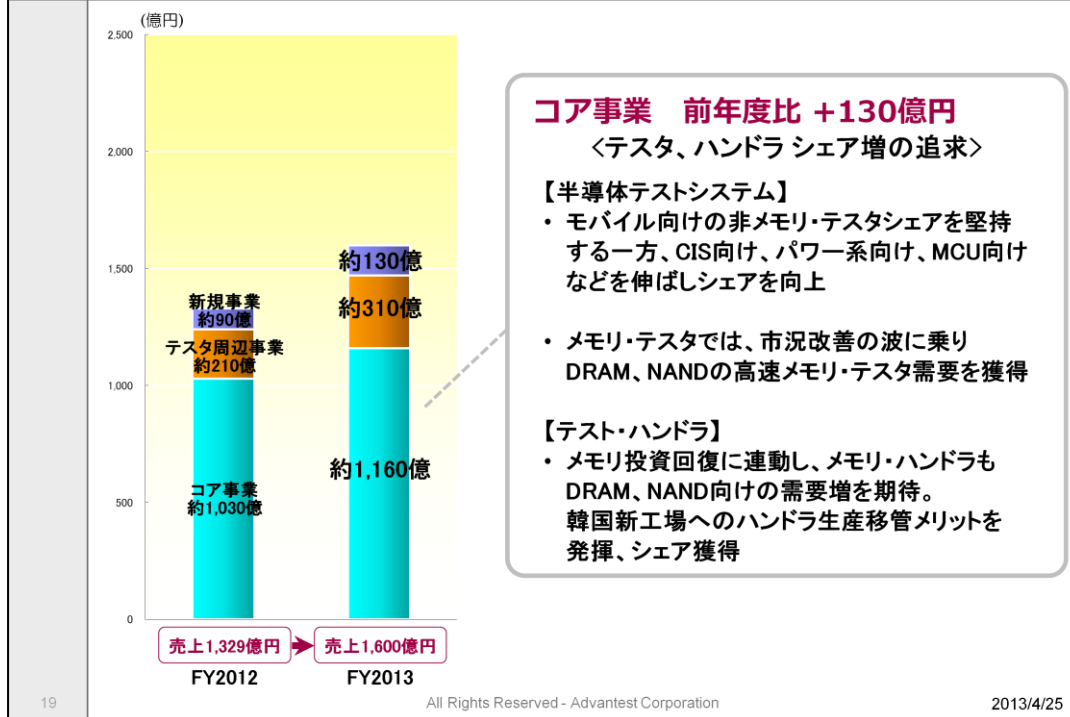
■ 包括ソリューションで好機をさらに活かす



○ 次に、メモリ・テストを基点とした関連ビジネスの展開について

- メモリ・テスト市場の回復が見込まれる中、DRAMテスト、NANDフラッシュ・メモリ向けテストの拡販に向け、当社には既に最適な製品が揃っている
- デバイスのテストには、テストだけでなく、テスト・ハンドラや、プローブ・カードなど、デバイス・インタフェースが同時に必要。それらテストに関連する製品も、今後需要が伸びると思われる。テストの設置から生産性向上サポートまでのサービス需要も拡大するだろう
- 当社は、今挙げたテスト関連の需要を幅広く獲得できるよう、包括的なテスト・ソリューションの提供力と競争力を磨いてきた。今年は、その蒔いた種の芽を出す好機と見ている

13年度主要施策:コア事業

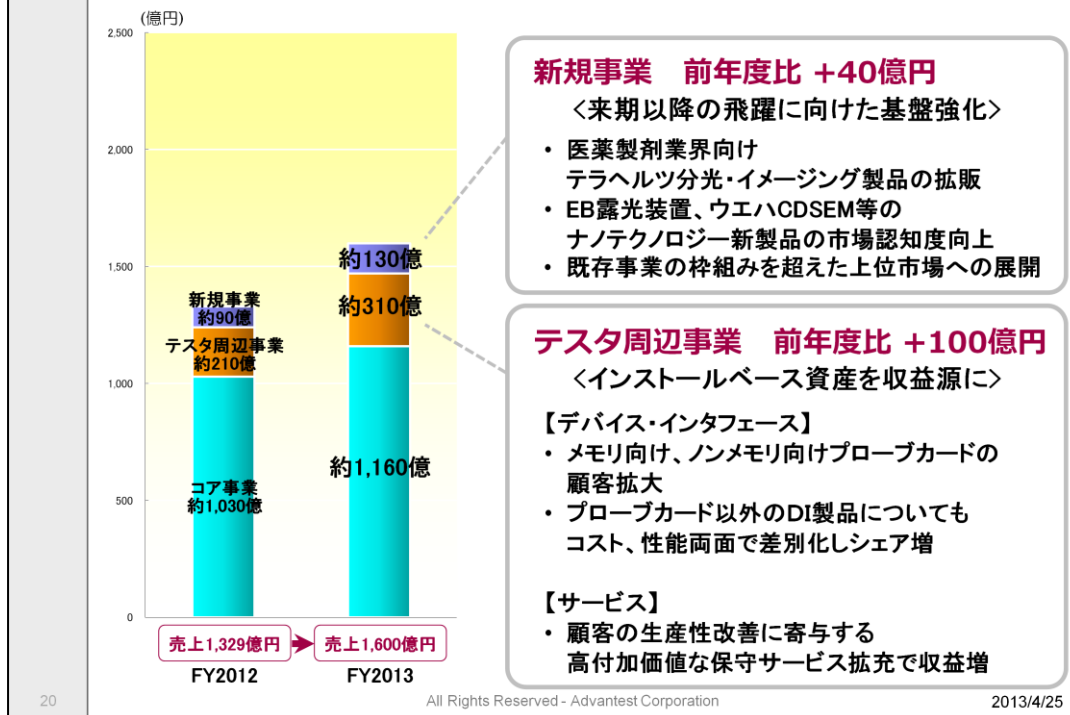


○ メモリ・テスト関連も含め、業績を伸ばすための今年度の施策について

- コア事業について。
 現在、テスト、テスト・ハンドラの市場シェアは、それぞれ50%台の前半、10%台の前半と推定。さらにシェアを伸ばし、コア事業として合計で前年度比130億円の売上増を目指す
- テスタ事業では、
 - 非メモリ・テストでは、モバイル向けでここ数年伸ばしたシェアの維持と、CIS向け、パワー系向け、MCU向けでのシェア獲得を追求
 - メモリ・テストでは、市況改善の波に乗り、高速メモリ・テスト中心にシェアを伸ばしたい
- テスト・ハンドラ事業は、メモリ関連での需要増が見込まれる上、先端デバイスのファイン・ピッチ化が今年以降進行することで技術優位のある当社ハンドラにチャンス。韓国新工場への生産移管による競争力強化との相乗効果で、シェアを伸ばす

13年度主要施策：周辺/新規事業

ADVANTEST



○ 続いて、新規事業とテスト周辺事業について

- ・ 新規事業については、
 - ・ テラヘルツ波製品の医薬製剤業界への拡販
 - ・ EB技術を使ったナノテクノロジー事業新製品の市場認知度向上
 - ・ 半導体テストの枠組みを超えた上位市場への展開

などに取り組み、将来より高く飛躍するための基盤を固めていく

- ・ 最後に、テスト周辺事業について。
デバイス・インタフェースとサービス合計で
前年度比100億円の売上増を目指す
- ・ デバイス・インタフェースについて
 - ・ プローブ・カードは、現在まだ各顧客での評価段階だが、
順次顧客を獲得し、一定の成果を出していきたい
 - ・ プローブ・カード以外のデバイス・インタフェースも、
コスト、性能両面で差別化し、シェアを伸ばす
- ・ サービスについて
 - ・ 顧客の生産性向上支援など、付加価値の高い保守サービスを拡充し
収益を増加
- ・ 過去当社が蓄積した、膨大なインストールベースを収益源へ活用すべく
テスト周辺事業の強化に取り組む

2013年度 業績予想

ADVANTEST

2013年度為替前提: 1米ドル=90円、1ユーロ=120円

(単位: 億円)	2012年度 実績	2013年度 通期予想	増減率
受注高	1,257	1,650	+31.2%
売上高	1,329	1,600	+20.4%
営業利益	1	130	163倍
当期純利益	-38	98	-
1株当たり 中間配当金	10円	10円(見通し)	-
1株当たり 期末配当金	10円	10円(見通し)	-

○ 以上を踏まえた、2013年度の業績予想は次のとおり

- 受注高 1,650億円
- 売上高 1,600億円
- 営業利益 130億円
- 当期純利益 98億円

- シェア向上、周辺事業の強化などで受注、売上を伸ばす

- 現在円安が進行しているが、これは基本的に恩恵となる。
 ただしビジネスの状況により、業績への影響度は変わってくる。
 参考まで現在の見通しは、
 対米ドルでは、1円の円安で年間の営業利益が 約3.4億円増
 対ユーロでは、1円の円安で年間の営業利益が 約1億円マイナス

- 営業利益率は約8%、当期純利益率は約6%を予定

- 一株当たり配当金は、年間20円を予定

- 決して楽観できない事業環境だが、中期・長期の視座に立ち
 重点分野に対する設備投資・開発投資を、積極的に行う。
 今年度は、プローブ・カード関連の設備増強や新規事業拡充を
 積極的に進める予定

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。